

かがやき

令和2年11月20日（金）
多摩市立連光寺小学校
特別支援教室 かがやき学級
学級通信 NO. 8

木枯らしが吹いて冬がはじまる

木枯らしが吹いて11月中旬を過ぎました。年末に向けて今年は特に早く季節が駆け抜けていようです。季節は冬に移っていきます。社会を見渡せばまだまだ気をもむことがあります。どんな時にも実りの秋があり、凜と立つ冬があり、その中で子どもたちは成長していきます。日々の学校生活の中で少しずつできるようになっていること。まだ課題はあるけど、出来たこと。その日たまたまできたこと。いろんな成長があると思います。季節の変化と成長に目を向けて気持ちを温めたり切り替えたりしながら日々進んでいければと思います。



自分を「ふりかえる」こと

個別指導の中でそれぞれ必要に応じて自分自身の学校生活や授業を「ふりかえる」指導を行っています。朝の調子は？準備はできた？昨日は眠れた？最近どんな調子？自分の調子や気持ちについて三段階で評価したり教師が言葉や表出を補いながら整理したりしています。自分をふりかえることは大人になっても難しいものですが、自分の気持ちを表出することや見直すきっかけとして少しずつ習慣化していければと考えています。振り返る子どもたちの言葉は様々です。話を共有していくと一緒に嬉しくなったり、おもしろくなったり日々の愚痴につながったりします。「気持ちの本」という絵本にはこんなことが書いてありました。「言葉(気持ちを表すと)にするとうれしいことは倍になり、悲しいことは半分になる。」なるほどなあと思います。自分を整理することと気持ちは強くつながっているのだと感じます。うれしいことも不安なこともイライラすることも、自分のことをふりかえることでより理解できる。そんなことに子どもたちが何となく気が付いていけるようにと思います。

「気持ちの言葉」・読み聞かせから考えよう・共有しよう

個別指導や小集団指導の中で定期的に取り組むようにしているのが「気持ちの言葉」です。前の通信でも紹介しましたが、「うれしい」「たのしい」「あんしん」「イライラ」「かなしい」等々。自分の気持ちを表す言葉の意味や使いかた、使う場面を考えたりつかったりしています。先日、低学年の小集団では「ないた」という絵本を題材に指導を勧めました。言葉が少なく、絵の内容からそのときの気持ちを考えるような構成の本になっている本でした。「こんな時ある？」「どんな気持ちかな？」等、子どもたちに問いかけていくと「痛くて泣いてるんだよ」「これはうれしいからかな」「僕と同じだ」いろいろな声が聞こえてきました。泣くという同じ言葉の中にもいろいろな意味があることをみんなで共有することができました。自分の気持ちを自分の言葉で適切に伝えられる。そんな場面につなげていければと思います。



～お知らせ・お願い～

☆かがやきの学級通信は連光寺小学校のホームページからもご覧いただけます。ご利用ください。

☆日頃より学級の指導にご協力いただきありがとうございます。さて、「連絡帳」でお子様の学校での様子をお伝えしています。確認された後にサインまたはチェックをいただけると助かります。ご家庭と学校との連携をさらに進めつつ指導の充実を図っていきたいと思います。よろしくお願ひします。